

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	自治公民館事業	担当課	市民協働推進課	
総合計画	政策	みんなで築くまち	計画期間	平成 4年度～
	施策	地域コミュニティの充実	種別	任意的事務
	基本事業	コミュニティ活動の活性化と環境づくり	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-020702-08 単独	根拠法令・条例等	守谷市自治公民館建設補助に関する規則 守谷市空き家等活用コミュニティ推進事業実施要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成4年に地域住民同士の交流及び地域づくりの推進のため、自治会・町内会等が管理運営する自治公民館の建設、修繕等に係る費用を助成する事業として開始した。	<ul style="list-style-type: none"> 自治公民館を持っている自治会・町内会に対しては、新改築・増築や修繕の申請を前年度の7月末までに提出していただき、内容を審査し翌年4月に補助金交付決定を行う。工事が完了したときは実績報告書を市に提出し、竣工検査を実施して補助金を交付する。補助率は工事費の1/2である。 自治公民館を持たない自治会・町内会に対しては、交流の場の提供として地域内の空き家を利用し、地域住民の交流の場となるコミュニティサロンを開設する。空き家等の借上げに要する経費は市が負担し、維持管理及びコミュニティサロンの開設に要する経費は申請団体が負担する。市の負担は、契約時に係る費用（敷金・礼金・不動産仲介手数料等）及び家賃（月額10万円限度）である。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域住民のコミュニティの場となる自治公民館の新改築・増築や修繕に対し補助金を交付し、地域住民の自主的なコミュニティ活動を促進する。また、自治公民館を持たない自治会・町内会に対しては、空き家等の活用により地域住民の交流の場を提供している。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民主体のコミュニティ活動を行いやすくする活動基盤を整える。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
自治公民館の新改築・増築・修繕に対しては、市が2分の1を補助し、残り2分の1を各自治会が負担しているが、空き家等コミュニティ助成は市が全額を負担しているのが現状で、自治公民館事業と空き家等コミュニティ助成との公平さを欠いている。	次回更新時までには、空き家等コミュニティ助成団体と家賃等について協議する。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
空き家等コミュニティ助成事業要綱を改正する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	自治公民館建設補助事業について、自治会からの申請に基づくものであるため、件数及び補助金額に増減があるものの現状維持とする。 また、コミュニティサロンについては、平成31年度にかけて要綱の見直しを行い、事業費の削減を図る。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> 自治公民館建設補助金は、自治会からの申請に応じての補助であるため、補助申請件数・補助金額に増減はあるが、申請に対しては概ね補助できている。 空き家コミュニティについては、公民館等がない自治会の活動拠点として必要な制度であるが、制度に公平性を欠く部分もあることから、平成30年度において制度の見直しを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1地区の自治公民館を修繕し地域の活性化に貢献した。 3地区のコミュニティサロンの更新契約を行い、うち、1地区のコミュニティサロンの賃借料を減額した。また、平成31年度においても引続き制度の見直しを実施していく。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
補助金の額（千円）	631.00	1,038.00	686.00	3,009.00	5,000.00
補助金の交付件数（件）	3.00	4.00	1.00	7.00	10.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	自治公民館事業は、自治会からの申請に基づくもので、毎年数値は変動するものであるため、横ばいとする。また、空き家コミュニティについても、制度の見直し等をふまえて現状維持とする				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	自治公民館建設補助については、各自治会からの申請に応じて補助するもので、今後は各自治公民館の老朽化を考えると拡大傾向にある。空き家コミュニティについては、制度の見直しを図りながら補助額の改善が必要である。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	14,452	7,685	6,994	10,778	10,778
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	7,685	6,994	0	0
	一般財源	14,452	0	0	10,778	10,778
正職員人工数（時間数）		62.00	112.00	69.00	0.00	0.00
正職員人件費		254	459	288	0	0
トータルコスト		14,706	8,144	7,282	10,778	10,778

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	北園集会室維持管理事業	担当課	児童福祉課	
総合計画	政策	みんなで築くまち	計画期間	平成 9年度～
	施策	地域コミュニティの充実	種別	任意的事務
	基本事業	コミュニティ活動の活性化と環境づくり	市民協働	その他
予算科目コード	01-030201-05 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
地域社会の充実・発展を図るため、平成9年の北園保育所のオープンに合わせて、同施設内の集会室を地域住民に開放することとなった。	集会室の適正な維持管理を行い、地域交流の場として提供する。 ・警備委託，空調保守点検委託，環境衛生委託，消防設備点検委託 ・利用希望者からの申請を受け、貸出しを行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
当該施設を適切に維持管理することで、地域住民に安全・快適なコミュニティスペースを提供し、地域活動等の発展につなげる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民主体のコミュニティ活動を行いやすくする活動基盤を整える。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
貸出件数は増加傾向にあり，地域のコミュニティの活動推進のために貢献できている。	特になし
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
今後も市民が安全に利用できるよう，適切な維持管理を継続的に行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	管理方法等は変更ないため，コストは維持となる。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
貸出件数は横ばい傾向であるが、地域のコミュニティ活動の推進のために貢献できている。	集会室内灯電基盤の修繕及び避難経路灯の改修工事を実施し、市民が安全且つ快適に使用できるよう努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
貸出件数（件）	20.00	19.00	16.00	30.00	30.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	自治会の活動の場として定着し、活発に利用されており、住民間の連携意識が高まっている。利用可能となる土日の利用頻度は高く、成果の向上余地は小さい。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	利用者が町内会・子ども会等、目的が地域社会の充実・発展を図るものであり、自治会活動活性化の一助となっている。今後は近隣の松並青葉地区の住民の利用も見込まれる。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	626	630	837	671	671
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	629	0	0	0
	一般財源	626	1	837	671	671
正職員人工数（時間数）		12.00	14.00	51.00	0.00	0.00
正職員人件費		49	57	213	0	0
トータルコスト		675	687	1,050	671	671

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	「学生が輝く“まち”」再生プロジェクト	担当課	企画課	
総合計画	政策	みんなで築くまち	計画期間	平成28年度～
	施策	地域コミュニティの充実	種別	任意の事務
	基本事業	コミュニティ活動の活性化と環境づくり	市民協働	その他
予算科目コード	01-020107-18 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>短期間の宅地開発により人口が増加したみずき野地区では、急激に高齢化が進んでいる。</p> <p>この地区のみずき野町内会は、今後の将来を見据えたまちづくりを検討したいとしているが、町内会は高齢化が進んでおり、検討するに当たって若者を取り込む必要がある。</p>	<p>市が借り上げる空家（シェアハウス）に、地域活動に参加することを条件に、大学生に移り住んでもらう。</p> <p>活動を通じて地区に愛着を持ってもらうことでシビックプライドが醸成され、将来は、つくばエクスプレスにより東京圏との近接性を強みに持つ本市を「第2のふるさと」として選択してもらうことに繋げる。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>みずき野地区に学生を呼び込み、地域活動に積極的に携わっていただくことで、学生が輝くまちとして再生（地区の活性化・若返り）を図ることを目指す。この目指す将来像は、魅力ある付加価値となり、本市と同様に東京圏との近接性を持つ市町村と差別化し、U・I・Jターンを促進し、守谷市地方創生総合戦略に掲げる基本方針「『住まう』まち・守谷」を実現することができる。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民主体のコミュニティ活動を行いやすくする活動基盤を整える。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 事業開始から2年間の経過し、意識の高い学生が集まり町内会活動や市事業に参加しているが、学生間で活動回数に差が生じている。 今年度いっぱい地方創生推進交付金が終了するため、新たな財源の確保が必要となる。 	<p>[平成30年11月]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生による事業の成果発表 <p>[～平成30年12月]</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度以降の事業計画、募集条件を決定 他地区（北守谷地区）へ拡大調整 <p>[平成31年1月～3月]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の募集、入居手続き <p>[平成31年4月～]</p> <ul style="list-style-type: none"> ガバメントクラウドファンディングの開始
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の報告を定期的に行うよう義務付ける。 個人版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングを活用することで、財源を確保する。 	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	<ul style="list-style-type: none"> 次年度からはシェアハウスを3棟から6棟へ拡大し、みずき野地区だけではなく、他地区（北守谷地区）でも実施する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の取組（評価、課題への対応）
地区からの要望もあり、シェアハウスを3棟から4棟に拡大する。平成30年度当初の時点では定員に空きが生じているため、募集方法を工夫するなどして、早期の入居者確保に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度は年間通して8名での活動であったため、3棟を借上げた。 ・2018年11月で事業開始から2年が経過したため、2年間の総括、今後の活動予定及びみずき野商業施設跡地利活用方針について、市職員、市議会及びみずき野町内会に対し成果発表を行った。 ・具体的な活動内容として、みずき野夏祭り、お花見、ソフトボール、寺子屋等の町内会活動やサタデー学習、部活動指導等の市事業にも参加し、町内会等から事業継続の声が上がった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
当該地区に転入した学生（卒業生含む）の数（人）	0.00	8.00	8.00	12.00	18.00
町内会行事等における学生の活動回数（回）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	学生は、町内会行事等に積極的に参加し、活動回数が増加している。また、みずき野町内会在住の高齢者から「引きこもりがちだったが、学生との活動が楽しみになり外出することが増えた」という声や、小学生から「勉強が分かりやすく、楽しかった」という声もあり、成果が見られる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	みずき野地区において成果が見られたことから、次年度は北守谷地区へも展開し、事業の拡大を図る。また、学生の人数が増えるため、両地区におけるイベント開催時は相互に協力を図ることでより活発な活動を行う。 ※国の地方創生推進交付金事業を活用して実施してきた『「学生が輝く“まち”」再生プロジェクト』が平成30年度で終了となる。平成31年度から『“飛び込む・関わる・創る”守谷学生シェアハウス事業』に事業名を変更し、市単独事業として実施する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	3,921	6,318	4,383	7,570	7,570
	国・県支出金	1,960	3,159	1,705	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	2,678	7,570	7,570
	一般財源	1,961	3,159	0	0	0
正職員人工数（時間数）		345.00	218.00	603.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,415	894	2,518	0	0
トータルコスト		5,336	7,212	6,901	7,570	7,570